



2020-3号
令和2年10月

発行所 独立行政法人 国立病院機構 西別府病院
住 所 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地
TEL 0977-24-1221(代表)
FAX 0977-26-1163(代表) 0977-76-7231(連携室)
ホームページアドレス [http\(s\)://nishibeppu.hosp.go.jp](http(s)://nishibeppu.hosp.go.jp)



当院駐車場から鶴見岳を望む (撮影者：内科 城内英郎)

目 次

令和2年度の半ばにあたり.....	2	永年勤続表彰.....	5
医局紹介 内科・呼吸器科	3	～夏を楽しもう2020～ ☆ in 西別府 ☆	6
オンライン面会.....	4	地域医療連携室だより	7
当院の面会制限について	5	職場紹介	8

理 念 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

基本方針 1. 患者中心の医療 2. 患者の権利と尊厳を守る 3. 政策医療の推進 4. 地域医療への貢献
5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進 7. 経営基盤の確立

患者さまの権利 1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利
3. 自分で医療の内容を決定する権利 4. プライバシーを保護される権利
5. カルテ開示を受ける権利 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利



日本医療連合認定病院
認定番号: JQ1505号

令和2年度の 半ばにあたり



院長
後藤 一也

令和2年度も半ばを過ぎようとしています。新型コロナウイルスに加えて豪雨、猛暑、台風など人知の及ばないことの多さを改めて思い知らされた半年間でした。

9月になり今春入職した看護職員の「リフレッシュ懇親会」がカンファレンスルームで開かれました。清涼飲料水とお菓子が出され、各病棟からのビデオメッセージに参加者の挨拶などを交え、楽しいひとときを過ごすことができました。4月1日の辞令交付以来、久しぶりに全員と顔を合わせることになりましたが、明るく引き締まった皆さんの表情をみて、安心致しました。今や常套句となった「新型コロナウイルスによる前例のない～」と挨拶で切り出しましたが、看護職員を含め新人職員との交流で例年と異なるのは、年度はじめの歓迎会のみではなかったのか、職員の皆さんの働きぶりを把握し、病院の現状や考えを十分伝えることができているのかどうか、懇親会を振り返り考えた次第です。

当院では感染者の受け入れや職員の感染罹患などはまだ経験しておりませんが、令和2年度の前半は新型コロナウイルス感染症への対応に追われた毎日が続きました。医療機関や介護施設でのクラスター関連の報告や報道をみても、当院でいつクラスターが起こってもおかしくない状況です。インフルエンザ流行期を控えた今、これまで取り組んできた感染対策を再度見直し、強化に努めねばなりません。その中で、感染対策の一環として患者さんやそのご家族にご理解、ご協力を頂き実施している面会制限について、代替手段として行っているオンライン面会を充実させたいと考えます。

令和4年度からの病棟集約・再編に向けて、本年7月からは東病棟増築に向け設計打ち合わせが始まるなど、病院は大きな転換期を迎えております。新型コロナウイルス感染症対策はもちろんのこと、年度半ばを迎え年度当初に掲げた病院目標、重点課題の達成状況を検証し、年度後半に向けて、職員一丸となって目標達成に取り組めます。

医局
紹介

内科・呼吸器科

内科 中野 哲治

当院は大分県における唯一の結核最終拠点病院となっており、大分県と福岡県の一部を含む地域における結核と非結核性抗酸菌症とを合わせた抗酸菌症に対する診療の専門病院としての役割を果たしています。当科は結核病棟と一般病棟に病床をもち、結核関連疾患に加えて、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎などの呼吸器疾患について専門的に診断治療を行っています。

今回は、高齢化社会に伴い最近患者さんが増加傾向にある慢性閉塞性肺疾患について簡単に解説しようと思います。慢性閉塞性肺疾患は英語の略語でCOPD (chronic obstructive pulmonary disease) とよばれ、大気汚染やタバコの煙などの有害物質を長期間吸ったために肺に炎症が起きる病気です。そのため、タバコによる肺の生活習慣病とかタバコ病とも呼ばれています。推定約530万人の患者さんがいるといわれていますが、実際に病院で診断された人は約26万人で、COPDであることに気づいていない、または診断されていない人が多数いると考えられています。タバコの煙などにより肺に炎症が起こると慢性気管支炎の状態になり、気道と呼ばれる空気の通り道が狭くなるために呼吸がしにくくなって息切れを感じるようになります。狭くなった気道に分泌物がたまると、咳や痰がいつまでも続くようになります。気道の先につながった袋状の肺胞が破壊されてしまうと肺気腫という状態になり、酸素と二酸化炭素の交換がうまくできなくなります。ではどのような人がCOPDの可能性あるかといいますと、①40歳以上②毎日タバコを吸っている、または今はやめていても過去に喫煙していた③坂道や階段などで息切れや息苦しさを感じやすい④風邪をひきやすい、または長引きやすい⑤咳や痰が慢性的に続いている、といった特徴に当てはまる場合、COPDを疑って呼吸器内科を受診することをお勧めします。では受診した際にどのような検査を受けるかといいます

と、胸のレントゲン検査やCT検査で肺の状態をみたり、呼吸機能検査で肺の機能を測定することなどで診断を行います。治療としては、肺のダメージは残念ながら元には戻りませんので、治療の目標は病気の進行を遅らせることになります。タバコの煙が最大の危険因子ですので禁煙はCOPDの最大の予防法であり治療法といえます。その他、気管支を広げて息をしやすくする気管支拡張薬や気道のクリーニングのために痰を切れやすくする去痰薬を使ったり、症状によっては抗菌薬や利尿剤など、原因に合わせた治療も行います。また、場合によっては酸素の吸入が必要になることもあります。逆にCOPDであることに気づかずに、予防や治療を行わずに放置していると、進行や増悪により呼吸が苦しくなり、酸素ボンベなしの生活が困難になったり、寝たきりなど深刻な状態になることもあります。もしかしたらCOPDかもしれないと心当たりのある方は躊躇することなく当科または近隣の呼吸器内科を受診してみてください。

当科のスタッフは、常勤医師4人と非常勤医師1人の計5人で、結核診療はいうまでもなく、今回解説しましたCOPDほか呼吸器疾患について日々診療にあたっています。今後も地域医療に貢献し地域の皆様のお役に立てるように診療に取り組んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

担当医師 **中野 哲治** (内科医師)

大分医科大学 (現大分大学) 卒

日本呼吸器学会専門医

日本内科学会認定医

日本化学療法学会抗菌化学療法認定医

インфекションコントロールドクター

オンライン面会

療育指導室 保育士 神鳥由香

今般の新型コロナウイルス感染症の流行により、様々な感染拡大防止策を講じることとなりました。病院内で行っていたイベントや面会、屋外での散歩などを制限し、利用者さんやご家族に理解と協力を求めました。

収束の目途が立たない中、利用者さんやご家族は長期化する面会制限から不安やストレスを感じることとなりました。そのような現状を少しでも緩和できるよう、専用のタブレット端末を準備し、療育指導室と病室を繋ぎ、利用者さんやご家族の双方が顔を見ながら会話できる「ビデオ通話」を開始しました。

7月より東5病棟の療養介護サービス利用者に対し、オンライン面会の試行を開始しました。7月の希望者は3名、8月はリピーター含む5名の希望がありました。

最初は、ご家族からオンライン面会に対する不安の声も聞かれましたが、実際体験してみると・・・

「今日は目がしっかり開いているのがわかって安心しました。」

「自分達が見えていない角度から本人を見るとすごく新鮮だった。」

「元気な顔が見られて良かった。今はこんなことが出来るなんて凄い。こうして顔が見られて有難い。」

「返事がないからどうなのか？って思っていたけど、これも悪くないですね」などの言葉をいただきました。

また、8月のオンライン面会では、利用者さんの誕生日ということもあり、サプライズの「誕生日会」を行いました。

「こんな形でお祝いしていただけて、息子も喜んでいてと思います。」と、涙ながらに話されていました。

利用者さんからも、

「顔が見られるだけでもホッとしました。ありがとう」

「お願いごとをその時に頼めるから助かる」などのご意見をいただきました。

感染拡大防止策を徹底すると共に、タブレットや電波状況といった環境整備の課題などありますが、今後は東5病棟の利用者さんだけでなく、東1～4病棟の療養介護サービス及び、医療型障害児入所サービス利用者も利用できるよう、準備を進めています。

利用者さんやご家族が安心して面会できるよう、今後も多職種で連携を図って取り組んでいきたいと思っています。



当院の面会制限について

管理課長 菊地 武司

当院の面会制限については、大分県内の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2月末から面会禁止としていましたが、政府の緊急事態宣言の解除、大分県内での新規感染発症者が4月22日以降みられないことから、6月1日から、事前予約制のもと、月1回、面会時間15分間（7月は30分に延長）の、面会制限の緩和を行いました。

また、これに併せて療育指導室が中心となって、病院タブレットを用いたオンライン面会も試行的に始めました。

しかし、7月に入り東京での感染拡大後、徐々に地方への広がりを見せ、大分県内でも7月28日を皮切りに、感染者が増加し、やむを得ず、7月31日より、再び面会禁止としました。

当院は障害者医療を提供する病院として長期入院患者さまが多く、ご家族からの面会の要望も強くあることから、新型コロナウイルス感染症は面会禁止の解除が見通せない状況が現在も続いておりますが、9月以降は、事前予約制のもとオンライン面会のみを継続することとしました。

現在、病院タブレットも増設し、1日最大4名までオンライン面談が可能となりました。今後も可能な限り患者ご家族の希望に添えるよう関係者が一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

永年勤続表彰

去る令和2年5月22日に永年勤続者への表彰式を執り行いました。今年は勤続30年の方が2名、勤続20年の方が8名表彰となりました。療養所・国立病院時代より当院及び国立病院機構施設に勤務され、長年の間職務に精励した功労に対して賞状と記念品が授与されました。今後益々のご活躍を祈念いたします。



区分	所属	職名	氏名
30年	企画課	企画課長	山本 賢一
30年	外来	看護師	西田 里美
20年	東5病棟	看護師長	原口 麻友
20年	中2病棟	看護師	後藤 ゆか
20年	中4病棟	看護師	野村 佳千子
20年	東2病棟	看護師	中野 久美子
20年	東3病棟	看護師	甲斐 優子
20年	東4病棟	看護師	土屋 真由美
20年	企画課	電気士	池田 孝一
20年	療育指導室	保育士	藤内 麻美

～夏を楽しもう2020～ ☆ in 西別府 ☆

療育指導室 保育士 古川 なつみ

西別府病院の夏祭りは、例年、各病棟内で利用者・ご家族・ボランティア・スタッフが集まり、賑やかな雰囲気の中、開催していました。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響により、夏祭りは中止しました。そこで、夏祭りに代わる企画をスタッフ一同で計画しました。

東1・2・5病棟（療養介護病棟）は、各部屋のベッドサイドにて「夏のお楽しみ会」に変更して行いました。

「夏を楽しもう」をテーマに、病棟から出られない利用者の皆さんに、少しでも「夏」を感じてもらえるように実施しました。アロハシャツを羽織った療育指導室スタッフが、花火や向日葵、スイカなどの顔出しパネルや、流行のプロップスを持ってベッドサイドへ行き、利用者の皆さんに好みの顔出しパネルを選んでいただき写真撮影を行いました。私物のサングラスを付けられたり、複数の顔出しパネルを選ばれたり、アロハシャツを着たりと、楽しそうに撮影されていました。今年度はそうした状況の中で形態を変えて実施したことで、少しは夏を感じていただけたのではないかと思います。例年行っている抽選会を楽しみにされていた利用者さんもしらっしゃったので、今後の課題として検討したいと思います。

東3・4病棟（療養介護病棟）は、プレイルームを水族館風に環境設定し、時間差を利用し、一人ひとり水族館体験をしました。

水族館には、チンアナゴ・セイウチ・クラゲ・触ってみよう・巨大水槽の5つのコーナーを設置し、各コーナーをまわりました。

利用者の皆さんは、チンアナゴやクラゲを鑑賞したり、巨大水槽内に入り周囲に視線を向けたり、身体を動かしたりする様子が見られました。セイウチは、驚いた表情や笑顔が見られました。触ってみようは、貝殻や水風船で作ったナマコなどに触りました。触った時は、眉間に皺を寄せたり、触ってすぐに手を離したりする利用者さんもいました。

今回の水族館体験を通して、利用者の皆さんは病室とは違う空間で、ゆっくりとした時間を過ごすことができたと思います。また、職員からも「水族館とても良かった」「水族館に行った気分になれた」などの声を聞くことができました。

今後も、状況に応じて3密を考慮し、利用者一人ひとりが安全に、安心して季節を感じてもらえるように、活動の工夫をし、提供していきたいと思います。

最後に、活動に際し、病棟スタッフのご尽力を心より感謝申し上げます。



患者さんの了承を得た上で写真を掲載しております。

地域医療連携室だより

地域医療連携係長
帯 刀 佐 智 代

10月に入り、今年も残すところあと3ヶ月となりました。昨年5月に平成から令和へ時代が変わり、新しい時代に前を向いて歩み出していたところに、世の中は今、新型コロナウイルスの猛威に襲われています。医療者として何ができるのか、考えさせられる日々が続いています。

さて、当院では令和2年4月1日より地域医療連携係長（看護師長）を再配置し、7月1日より新たに医療社会事業専門員（MSW）が1名配属され、当院の地域医療連携室に新しい風が吹いています。入院中の患者様をご自宅に帰る際は、細心の注意を図りながら退院前合同カンファレンスの開催や退院前訪問指導も

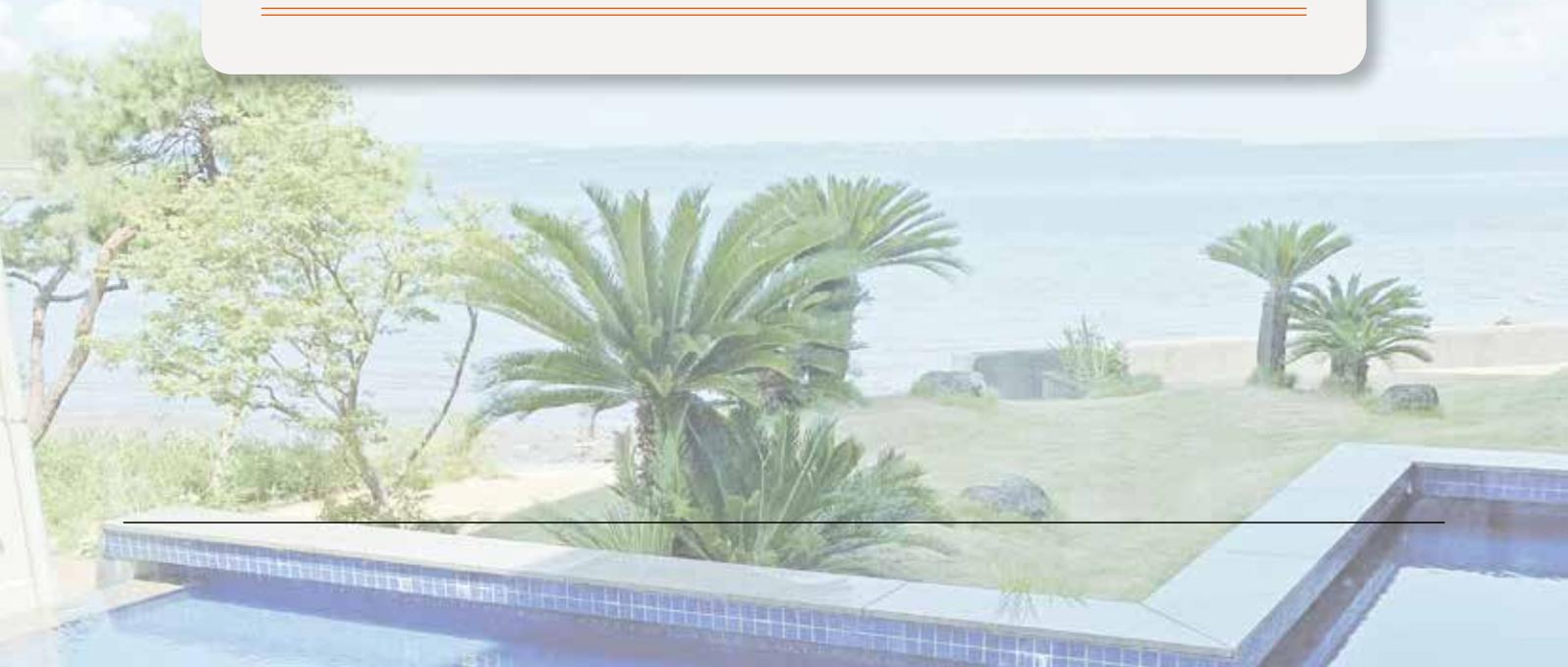
積極的に行なっており、これまでと同様に筋ジストロフィーや神経難病、重症心身障害児（者）、結核などのいわゆるセーフティネット系医療を中心に担っています。患者様やご家族と寄り添い向かい合い、各医療機関や各関係事業所とこれまで以上に連携を図りながら、新型コロナウイルスに負けないように共に令和の時代を突き進んでいきたいと切実に感じます。

最後となりますが、新型コロナウイルスの影響で今年度の病診連携セミナーが開催できていない状況となっています。今後落ち着きを取り戻した際には改めて開催したいと考えておりますので、その際にはご参加のほど心からお待ちしております。

新任のご挨拶

地域医療連携室 医療社会事業専門員 花 木 瑛 美

以前は別府医療センターで期間職員として約1年間、勤務していました。花木瑛美と申します。趣味は釣りです。MSW歴は2年目で、戸惑うことだらけですが、一生懸命頑張ります。ご迷惑をおかけしますが、よろしく願いいたします。



職 場 紹 介

西別府病院で働くスタッフを
毎回紹介しています。
この科はどんな診察をするの？
この部署はどんな仕事なの？など
意外と知らない病院のこと
覗いてみませんか

栄養管理室



栄養管理室は、管理栄養士と調理師、食器洗浄スタッフなど、栄養・給食に関わる複数の職種が連携し、医師の指示に基づいて、患者さん・利用者さんへの食事提供と栄養管理を行う職場です。

主な業務内容は、献立作成（各疾患・栄養設定に対応した80種類の献立、症状に応じた個別対応食、食物アレルギーや禁止食品を除去した代替献立など）をはじめ、多職種と連携した栄養管理、栄養食事指導（食生活の現状とその背景をもとに、食事改善や食生活の負担軽減を目指した実現可能な方法の提案と行動に繋がる仕組みづくりのお手伝い）です。

食事は、治療の一環であると同時に生活の一部です。患者さん・利用者さんに学ばせて頂きながら、より安心安全で喜ばれる食事提供とオーダーメイドの栄養管理を目指して参ります。



おせち料理

秋分の日行事食

(栄養管理室長 藤原 彰)

多機能型事業所「ひだまり」



「ひだまり」は児童福祉法・障害者総合支援法に基づき、在宅で生活されている重症心身障害児（者）の方に利用していただき、生活介護と放課後デイサービス・児童発達支援などのサービスを提供している事業所です。また、特別支援学校の長期休暇中および放課後における活動の場としても利用されています。

9時半～16時半までの間、保育士3名、看護師2～3名で利用者の生活介護を行っています。朝の会の企画として歌や季節の行事・誕生日会などを行い、利用者の方に笑顔で過ごしていただけるように支援しています。その後、昼食・入浴・おやつなどの活動を行っています。また、定期的に小児科医師や精神科医師、心理療法士や作業療法士などの多職種で利用者へ専門的ケアを提供しています。

日中活動として、5月は母の日のカーネーション、6月は父の日のコースターを折り紙で作成しました。7月は七夕の短冊にみんなで大変な願い事を書いて過ごしました。利用者の方は一人ではできないことも多いため、スタッフが一人ずつ側に寄り添い、サポートをしています。

これからも、利用者の方々が笑顔で安心して過ごせる「ひだまり」を心がけながら頑張っていきます。

(外来師長 村山 圭美)